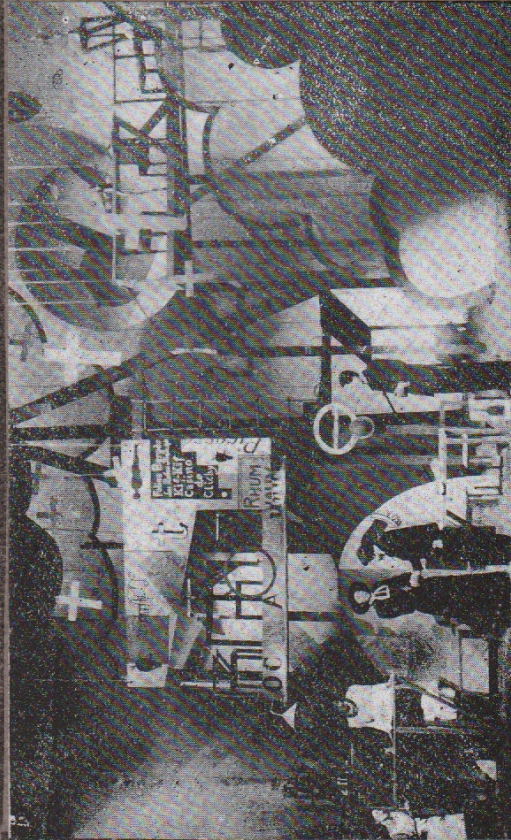


# 高田小劇場



高田小劇場所演  
ストロリントペルセ作「爛漫」  
の舞臺装設置村山知義製作

1 巻 50巻 (劇終巻)  
 2 巻 50巻 (劇終巻)  
 1 本 50巻 (終巻)  
 巻五十四日發行

大正十四年六月二十日印刷  
 大正十四年六月十四日發行

發行所 長盛合資店  
 印刷人 山縣 秀 美 堂  
 印刷所 山縣 秀 美 堂  
 印刷人 山縣 秀 美 堂  
 印刷所 山縣 秀 美 堂

發行所 長盛合資店  
 印刷人 山縣 秀 美 堂  
 印刷所 山縣 秀 美 堂





聖きさ少女なり

戸田達雄



高屋 鏡著 (再版)

### ●牛乳及加工學

定價金四圓八拾錢 送料貳拾七錢  
 紙數四百八十餘頁  
 總タロース 挿圖百餘ヶ  
 箱入美本 口繪 附表等內容  
 豐富

章を牛乳の分泌より説き起し其理學的並に化學的性質及細菌と牛乳との關係合理的取扱法は勿論バター、チーズ煉乳、粉乳、ヨーグルト、ケフィール其他各種乳製品の加工製造法を實際的に詳述し化學的細菌學的検査法並に分析法に及ぶ牛乳並に乳製品に關する諸般の事項を網羅し各項最近の學理と實際とを徹底的に詳述せるは著者の苦心の存する所なり、蓋し本書は單に教科書としてのみならず乳牛飼養者乳産物製造業者牛乳販賣業者諸彦の顧問として座右缺く可らざる良書なり  
 永田厚平著 (増補再版)

### ●新シキ豚ノ飼方

定價壹圓八拾錢  
 圖入全 送料 八 錢

子安農園立川養豚場主任成松靜雄氏  
 澗水洞養豚場主任大石嘉米太郎著

### ●利殖の早み 實地豚ノ飼方

特製壹圓八拾錢  
 並製壹圓五拾錢  
 圖入全 送料 六 錢

養豚業は日本に於ては將來大々的に發展すべき好事業否保健衛生體格改造等の見地からして獎勵しても發展せしめねばならぬ前途洋々たる最大利益ある好事業である、農家の副業としては適切此上なき簡易の仕事である前者「新シキ豚ノ飼方」は既に再版となりました即ち時代の要求は不言の間に實現します「實地豚の飼方」は著者多年の經驗を實際に經營して詳述せるもの、成松靜雄氏は其序文に「君の如く獨力を以て養豚業を經營し自らの汗の滴りを著書に公にせられたるは稀れに見る本書の價値」云々と讃せらる、實に豚の種類、種豚の採擇、審査法、飼養、管理、繁殖、畜舎の設計、飼料、豚肥の効用、疾病治療、豚肉加工法等著者の遺著を簡けた結晶である内容推して知るべし利殖に留意するの士は一讀せられんことを

長隆 舍書店





手

内藤辰雄

石かつぎである若者の私も、でんしやのすみのほうに、腰を下してあつた。私は、今日は、仕事を休んだのであつた。

私の眼が、手へ落ちる、と私は建築物をにくらしくなる。あかぐろくして、太い、何て穢い手だ、白い手が外にある、私は眼を上げた、

私はさも羨ましそうに、よこめで外のものの白い手を見つめた。

私は、まるで、眞珠を食はない豚みたいな男であつた。

電車を下りてきたところの私は、活動寫眞館の中に入つて行つた、プー、プア、プア、プア、ドンドン。やかましい

『居らつしやーあーい。』

『ごあんない言つたのは、さどばんで若い、ゐてう返しをいつた女だつた。

俗悪なかんばんだつて、女をつる餌にはなる。

私の背ろからもつづく、くろい、影影があつた。

『居らつしやーあーい』と、右手の、女が言つた。

『「こちらへ居らつしや』と、左手のくらがりのなかに立つてゐた女が、私に言つた。

私は、めすを奪はれた、大だつた。

眞つくろい、群衆だ、映畫なんか、見なくつてもいいのだが私は、左手のほうに、いい女を認め得たので、左手のほうへ行く事にした。

私の袖を、白い女が引つづけたが、彼女も、私の手を握るにしては、餘りに、うつくしかつた。

私も彼女の手を握つてはいけまい。

なるほど、石かつぎの私の手は、ざらざらしてあつた。

その、あんない女のさどば後の私は、大勢の男たちの後のほうに立つて、二三人まへに、入り口で、見たときの、女がゐるが、私は、映畫を見る、――。

私なのである。

私に見てゐる映畫の幕、大きな幕、――これを石にしたら、どのくらゐちもからう、――しかし、私は、石をかつぐよりも、軽い氣持がした。

私は、まへのその女のくびを見た、後から、私をおすひきたちがあつた、私はいつのまにか、わりこんで女の側に行く事をできた、

女は、振向くやうにした。

私のなかを、ふくわいが走つた。

このまへ、何とも私は、この館で、女の手を握つた事があつた。

女の手を握るとききの氣持を私はよく覚えてゐる、それは、汗ばんだ手の平に建築物を振潰した氣持だ。

が、私はいつもこの館にきてすきになれるひとを見た事がなかつた。もつともある、私の望んでゐるのは巨人である

今、私は、試みに一ぼんの指をもつて女のやわらかい指にふれてみた。

女は映畫に氣をとられてゐる。

私はいよいよ、指を女の指に掛けてみた、私の眼に、女のつんとすましてゐる眼とまるい鼻が見えた。私はどうしやう――ままよ、ままよ、

私の眼のさきで、眞つかな空氣が顛へた私は眞つかな空氣を見て、女の手を、握つた。と、女は手をひくのだつた、と、こゝろで、さびしい事には、私は、建築物を手に入れたやうな氣がした。

(をわり)

いふて、女は、今日、仕事を休んだのであつた。私の眼が、手へ落ちる、と私は建築物をにくらしくなる。あかぐろくして、太い、何て穢い手だ、白い手が外にある、私は眼を上げた、私はさも羨ましそうに、よこめで外のものの白い手を見つめた。私は、まるで、眞珠を食はない豚みたいな男であつた。電車を下りてきたところの私は、活動寫眞館の中に入つて行つた、プー、プア、プア、プア、ドンドン。やかましい『居らつしやーあーい。』『ごあんない言つたのは、さどばんで若い、ゐてう返しをいつた女だつた。俗悪なかんばんだつて、女をつる餌にはなる。私の背ろからもつづく、くろい、影影があつた。『居らつしやーあーい』と、右手の、女が言つた。『「こちらへ居らつしや』と、左手のくらがりのなかに立つてゐた女が、私に言つた。

失張私達過

宗合雑誌の使命

仲田定之助

誠にプロピウスが云ふ如く、新しい世界一元の思想は、過去の舊い二元論的世界形象に代つて今日の世界理想となつてゐる。此あらゆるもの統一への認識及び出現は、總べての人間の造形的製作を、我々自身の感覚に深く觸れる多くの將來した。綜合雑誌は新しき生活に觸れる多くの思想や形成の内容を具備しなければならぬ。ヘンガリーの構成主義者モホリイ、ナギーがチュッコの雑誌「バスマ」に書いた「綜合雑誌の進路」は此問題に就いて、彼の考察の結果を書き留めてゐる。

――綜合の精神は我々の生活及び生命の總べてを最も経済的にし、最も向上させ、最も構成的に建設することが出来る。生活の眞實の形成に従ふ綜合雑誌は藝術、學問技術、手工その他に對して其賤高下の階級を階さない。其處には總べてが同一價値で、そして相互に結合した力がある計りである。だから力を個々の分科にのみ制限することを避けなければならぬ。そして學者、藝術家、技術者、手工家その他のあらゆる生産的の精力を總括しなければならぬ。それから又、單なる根本的の理論的製作をつくるのみでなく、實際的形成の可能性を持つものを其に含有しなければならぬ。斯く説いた彼はその細目を擧げてゐる。教育學。基礎的教育から教育の最高級に至る迄。

建築。映畫。都市建築の根本問題。個人及集合建築。總べての浪費主義の解決。(馬鹿正直者と天閣に於ける垂直のエレベーターが早く、且つ利益であるやうに、平面基礎に於ける選擧をする。繪畫、彫刻及び他の形成物の相互的、並に建築に對する關係。衛生問題。光線照明。排水溝渠其他。新映畫脚本(今日猶ほ映畫會社の近視の爲めに實施されなさいこと)。通信事務の新様式。十六億の思想結合の建設に對する材料。ラオ。飛行機實験。國際語。交換可能性その他新しい醫者は初官能の本體を發見するだらう。單なる亂雜な決定でなく。社會、財政問題。新しい國。機械。簡短な技術綱。

觀照。評價。生産的投射。批評、繪畫、音樂、彫刻、に於ける新形文學、哲學、心理學) 成及び作品。劇場、寄席、曲馬園。材料問題。硝子、金屬其他。新化學。印刷術。そして總べてに記事の精確さを望み、猶ほ寄稿は新世界形象を創造する主觀的製作を要求してゐる。更にモホリイナギーは綜合雑誌の編輯方法として委員制度をとり、總べては共同に對議して實行すること、又その委員の特別號を出すことを説いてゐる。用語はその國語を用ゐるが、各國語の短く約説した個々の論文を附する。又三四年毎に種々な各國語の國際號を刊行する、なども。

II 彼は別に第一號の計劃を數へあげてゐる。重複する點も多し、ついでに擧げて見る。一、何を現代人によ要求する。それは新しい生命體成の先驅である。二、建築。三、映畫。四、工場。五、化學實驗室。

實際的 思想的 一般に本質的問題に就いて短く指導的の記事を挿入する。讀者との内的接觸と協力に對する刺激。將に青年への顧慮。一、一般問題への政治精神の廢止。二、新發明及實驗。三、音樂。著音機。發聲機械。純會話。寫眞。四、構成的早撮寫眞の力形式。五、藝術製作。六、技術製品(て)。七、學術製品(て)。八、幾何學。九、就ての批評(一定の標題として)。十、新自然現象と型式。

新語。新印刷術。無線寫眞。無線映畫時報。廣告。ホスマー。新しき展覽會。其他。新映畫脚本。運動藝術。劇場。電氣寄席。(以下二十一頁)

シヤツク。アラシヒとて男  
小收近江  
アツロ、アルトンはシヤツク、アラシヒの口癖に於て、讀書ではアラキ、シヤリー、アホリキル、シヤム、シヤネにロキトシヤツク、シヤツク、アラシヒに眞實なところが多いと告白してゐる。人は知るシヤツク、アラシヒはサン、アラシヒ書房から贈送たり、を發表してゐる。一九一八年のことだ。彼はパリの美術學校の生徒だつた。だともいふ。地位のことだ。それだけし知つたものはなかつた。アラシヒによつて、アラシヒの交遊は一九一六年に始つたといふ。アラシヒの病院だ。アラシヒは自らを負傷して聖地から發り歸されたのだといふ。アラシヒは一年の青年だつた。アラシヒはアラシヒの詩を作つておた頭だといふ。アラシヒはアラシヒが嫌ひ、アラシヒをやつて知つた位、アラシヒは大好き、アラシヒは不安だつたんだ。アラシヒは生れなかつた。アラシヒが退院すると、波止場人夫になつて、コアル川の石炭の荷上げをした。夜になると、カフエからカフエへ、シヤムからシヤムへ、アラシヒはアラシヒをアラシヒ、アラシヒをアラシヒに紹介した。アラシヒがアラシヒの名前をあげては時代だつたので、アラシヒはアラシヒの町を、アラシヒの中尉、飛行士、軍醫の洋服で、散歩したものだ。遊中、遊中に居つても、そんなこと、眼中になつた。舞手にするにも、今はは今夜はもうい。彼はアラシヒと呼ぶ女と同様に、アラシヒがアラシヒ、アラシヒの女を愛した。アラシヒだ。アラシヒが知らぬいといふ何でも毎日五時に、そのアラシヒがアラシヒを入れてくれるのだつたが、アラシヒは女の手に接觸して感謝の意を

といふ男の好きなだけだ。男れしと質けられることも厭はして二つたらうてのこと。男表したまでだ。その女は同様なだけで性的關係がなかつたといふ。それでも、情婦とは呼んで。アラシヒによればいつかアラシヒ、アラシヒからアラシヒ、アラシヒは眞實か



思想。馬鹿野郎！何が思想だの何んでも思  
 たい。馬鹿野郎！アナキズムやボルシェビ  
 キズムに思想だと思ふな。人間はみいずん  
 な阿呆だ。それに不慮な奴は腹を断れ！

永遠倦怠論

動いて動かされ、使して使され、造つて造  
 られる人間。生活の後に銃剣を抜く。狂  
 狂の破滅。馬鹿野郎！何んが貴族の胃  
 腹を破滅したのだ。馬鹿野郎！

御無理な廻轉

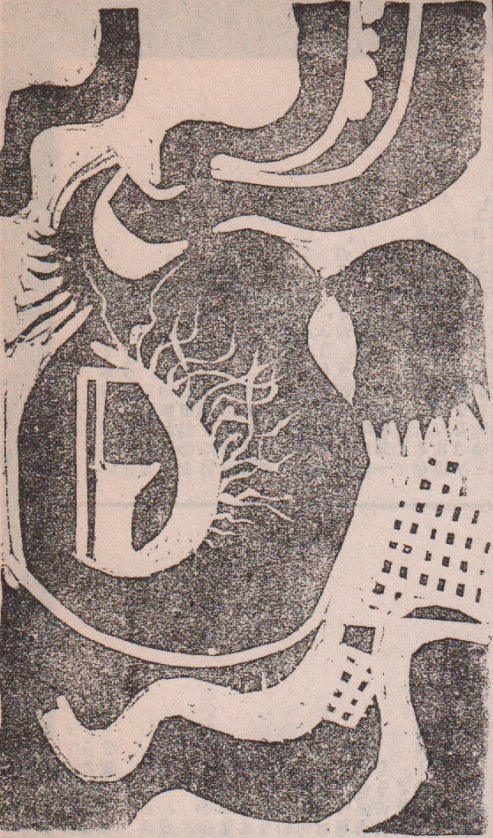
手に死に勝つに苦むがよい。前にも死に  
 前にも死に！停止！停止！停止！停止！  
 ！馬鹿野郎！馬鹿野郎！馬鹿野郎！

豚的勢力め！

社會學と經濟學の影に潜んだ豚的勢力め！  
 貴族は貴族の貴族として、労働者は労働  
 者として、農民は農民として、商人は商人  
 として、それぞれがそれぞれの役割を演  
 じている。それが自然の摂理だ。それが

あてやかなる花柳はるみ嬢

戸田達雄 謹刻



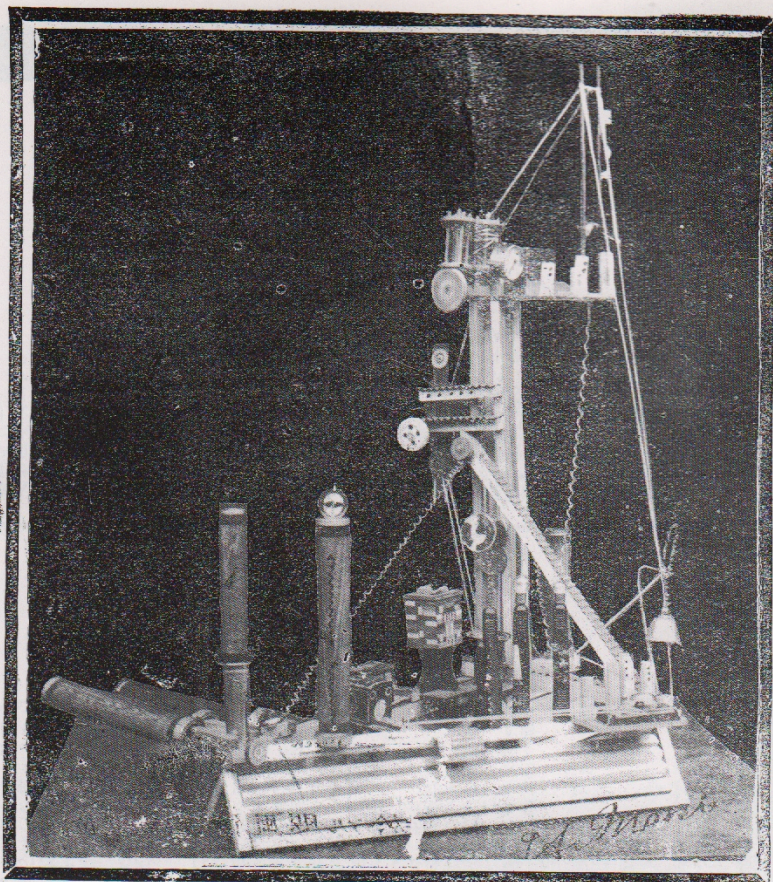
1 毎日私は死に  
 毎日の呼吸は死に  
 毎日の呼吸は死に  
 毎日の呼吸は死に  
 毎日の呼吸は死に  
 毎日の呼吸は死に  
 毎日の呼吸は死に  
 毎日の呼吸は死に  
 毎日の呼吸は死に  
 毎日の呼吸は死に

所謂復活せる女藝妓綜合評

1 所謂復活せる女藝妓綜合評  
 所謂復活せる女藝妓綜合評  
 所謂復活せる女藝妓綜合評  
 所謂復活せる女藝妓綜合評  
 所謂復活せる女藝妓綜合評  
 所謂復活せる女藝妓綜合評  
 所謂復活せる女藝妓綜合評  
 所謂復活せる女藝妓綜合評  
 所謂復活せる女藝妓綜合評  
 所謂復活せる女藝妓綜合評







型模臺號信風颶

### 颶風信號臺の模型寫眞に就て

— 海洋避難所のB一部解説 —

ここに示す颶風信號臺の模型は、私の設計による、Pawisssu Konstruktionsに依る海洋避難所Bの一部分である。

A、B二種の海洋避難所に就ては、此處では左程必要がないから詳述しないが、簡単に云ふとAは大洋上に施設する目的で計畫された大船船避難所であり、Bは日本近海に特設するべき、大洋船船避難所であり、路船船避難所である。

比較的小規模であるB設計に就ては、到底此處で全部的數理的な發表は不可能であるから、無數に設置される新らしい施設のうち、比較的諸君に解り易い、その上外形構造から云つても、コンストラクションの單純な颶風信號臺だけを寫眞に撮つて掲げる。

専門的留識のある、造船技術、建築技術、氣象學者、電氣技術で、構成主義以後の藝術運動を理解を持つ、ホントンから直接私に會つてもらふこと、今年の十二月、ホントン設計書を讀んでもらふことにする。

外型のコンストラクションだけわかる諸君にば此處に出した寫眞だけ見てもらつてもそれで充分であるが、然し何時までたつても、壁にかけて眺めるコンストラク

る。附屬せる小室は、信號機本部の附屬格納庫である。この平面の上階の後部には無線局と變壓所とを有して居り、背面は眞空管主宰機能部である。

上階の背面より氣象觀測室の側面に架せられたる長方形の集合體は燈臺への命令機能の大脳部である。

中央部に垂直に組織せられたる部分の頂部は颶風の臺距離半圓測定所であり下部は眞空管に依つて信號の命令所である。稍下部に突出せる探照機への信號路及港灣内に隅なく照り渡せる照明の最大方の負荷を荷つて日没後輝き出す。

前面突端に垂下する振鈴は直接三理に渉る有効音波を有して鳴り渡り、更に其左方に設置されたる有音機（海底を以て防波堤突端の大燈臺に至つて大騒音機となつて風浪を感て振動を傳へる）を通じて大騒音機なき避難船船へ對して海霧の中を完全に警告し得るべく裝置される。

浮標の操縦機である。港灣近く全力を擧げて順走し來れる、或は難走し來れる船船に對しつゝ合理的なる警留を行ふ。

築下中央部の方形建築物は避難船船乗組員の爲めの共同且つ自由使用に委する陸上宿泊りであつて颶風の通過を此處に待ちつつ静養し準備する。

右方二棟の建築物は六ヶ所のドック Dock に入渠すべき船船の自動入渠裝置の操縦室である。

注目すべき(雑誌)ども日本の

ゲエ・ギムギガム・フルフル・ギムゲム

東京・千駄ヶ谷・穂田一六四・エボツソ社

ボン

東京・神田・錦町一の一・ボン社

ボン

造型

神戸市・原田村・三五一

造型

ズズズ

東京・本郷・迫分町・八八

ズズズ

築地小劇場

東京・京橋・築地・二丁目

書廊九段

東京・麴町・富士見町・六



ゲエ・プル合評

イ・ロ・ハ・バ

- イ、さて、この生霊氣小僧を叱らうよ。
バ、これは文壇の片隅に近頃牛れかかつた「科学的な形式」でござい。
ハ、女でもなうに、どうして試験管でオナを〇〇〇〇〇〇〇。
ロ、あのオカッパのそろつてゐるのを見ると不貞處女團かも知れぬ。
イ、いとも小さき範圍は満足したものだれ。
ハ、今月紹介されたといふウルカワ某はギムケム達に氣に入られやうとして即ち作つたもので困るではないか。彼等の口調に依る。
バ、どかく眼界狭きものは高速度を以つて慢心する。ニがニがしや。
ハ、XXといふのはセルロイド製の落語家らしい。
ロ、とてもそんなものか何かでないかとやつておられない仕事だ。
イ、結局、イナガキタルホをボール紙製の試験管で化学的色揚げをやつただけのことさ。一種の新感覺派さ。彼等にいは紙念の逆轉とか、生活の潜水とかは思ひもよらぬといふ。
ハ、ワシはオマへん達の馬鹿にもアキレたまよ！斯うも忙しい猿マス（註猿に一度教へると死ぬ迄カクをうな）を、斯うもノキに續けるのは、ソタシヤ子を産みそうなんだよ。
ハ、アトムだかエレクトロンだか、目にもみえない、いやその小ささはさらの方がくわしく御存じだらうがさういふものが悪くくり固まるを、こんなもの達十人足らずになるらしい、ヤツカイ極まるね。
ハ、彼等は「海賊で、無敵艦隊で、貴族體で、發光體で、魔術家で、金屬製のタクトで、ガス體」ださうだ。よく自らを知るもの言である。諸君、こんなものがオイリヨウの方はありませんか？クダラナイ！
ハ、ホテルならたくさんあれば夜店で賣れる。この發光體は併し買手もあるまう。
ハ、君達は一藝術家で、それつきりさ。結構なことだ。俺もさうであれたら、どんなにか生きやすいだらうと思ふよ。だがだれね、オイ、君達の境遇が君達をそんな風にしたんだら、もうチツト想像力を働かせて貰ひたいね、君達はまだ若いんだ、出直せ。ギガロとかピリツとかメダとかチアスターセだとかにもいじ加減にあきてくれ貴重な紙面を割いて片々たる「小冊子」のために云々するもの、近時青年の心理の狭小、センバツ、無力、イェリガートルなるをウレシム也。
ハ、センバツ、ヒレツツ、聯想感覺のラレツ、空間に淨遊するミツバチの女王様か、いや、いや、シヨウイン様のロー人形、いや、いや、化物屋敷の新米のネズミか。いや、よくも、科擧者なんぞを氣取れたもんだ。ハハハハハハ。（以下二十一頁へ）

夜の62秒

柳川 穂人

JITABATA SUJUTO

いふ いふ

フウフウフウフウ

密行する巡査

ネエ ネエ 抱りて上げるわや

イノチハ

イノチハ イノチバカリハ

フウフウフウフウ

JITABATA SUJUTO

いふ いふ

赤いODORI

恐ろしく真直な

ナラバツタATAMADA

フツキヲ捺に

赤エ

黒エ

クツヂツクツクツクツク

何しろ立派だ

ロールを踏む

踊りだ

だが

然し

イノチ懸だ

とまれ

急激な踊りだ

滾るるばかりの赤子

これこそ

讀破すべし

應て

企劃する

轟然たる躍り

赤い躍り

黄の躍り

ゾツゾツゾツゾツヅヅヅヅ

空といわず

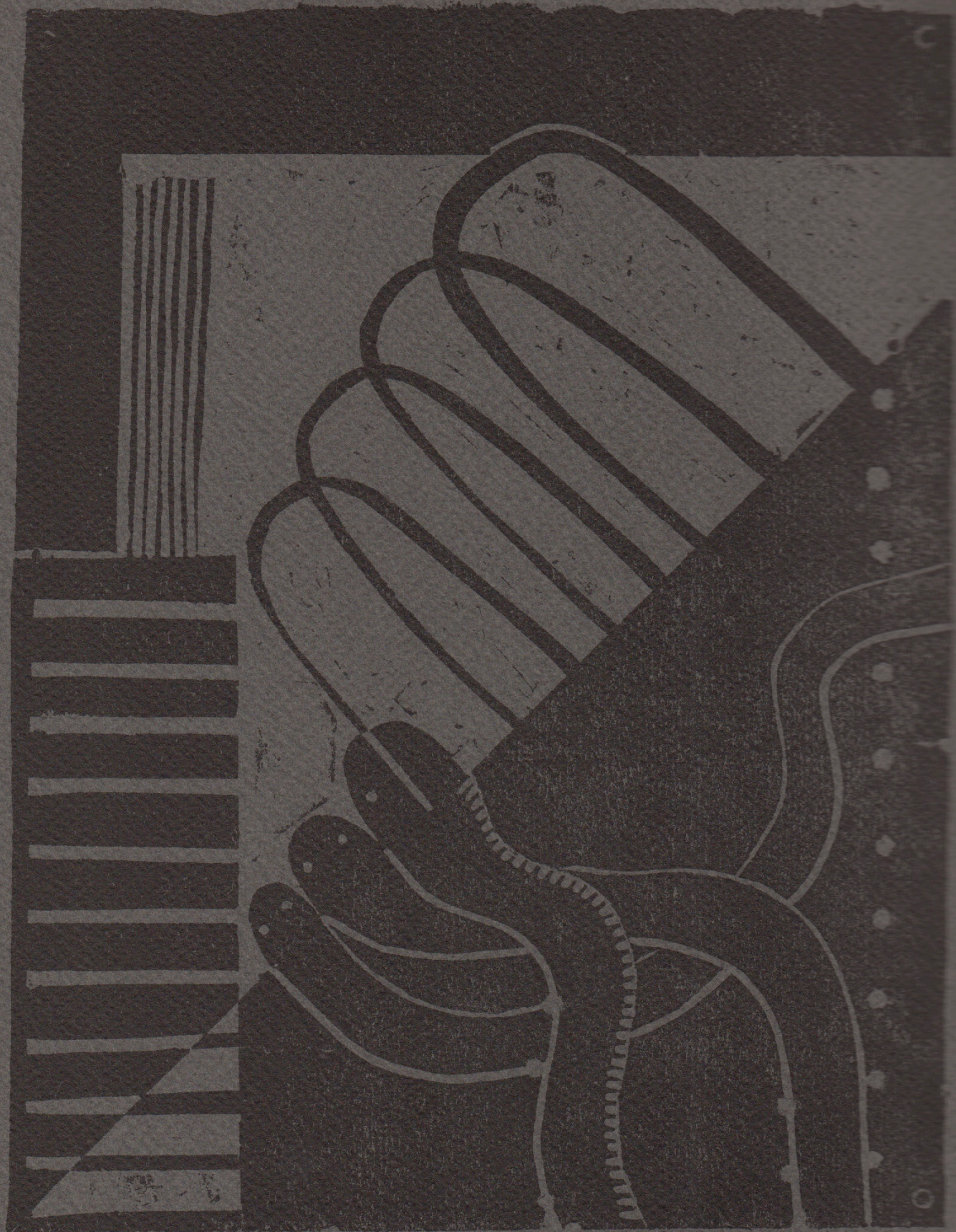
天下を涯まで

黒と黒と黒と黒と黒と黒と.....灰

大きなハサミを呉れ、地球を真の二つに割るんだ

岡田 龍夫

ボストの橋を歩む俺が、透明な街角に埋没された俺だ。空市街が揺れる「ア」、自動車も横切つた。セメツ橋は、鶴が、軍隊は出動した。速度ある聲音高く、高く、高く、女給さん！今日ば、早く開けて呉れ、やめ、やめ、やめ、で呉れ、おツ、ハサミだ、黒三角の骨董が腐つた心臓の中。馬鹿野郎！黎明が逃げ込んだ。滑り込んだ。塵埃されたX氏の遺言に、明日を知るものは呪ろわれたるかな。こおつと、未だ地球は割れそうにないな。おーい、カーいんな、落着いて呉れ、明後日は十萬年前の明日だ――



匍匐する蛇三匹 岡田龍夫

# ATELIER

定 價 壹 圓 七 月 號 郵 稅 三 錢

▲新しき「造型」に就ての一考察	一 氏 義 良
▲上代埃及に於ける染織工藝に就て	明 石 染 人
▲ヒツチトの藝術に就て	仲 田 勝 之 助
▲古今の藝術觀	木 村 莊 八
▲自然主義の醇化 (マソオット)	嵯 峨 咲 太 郎 譯
▲ゴッホの手紙	中 川 正 儀 譯
▲昔話二則	小 杉 未 醒
▲梵雲庵主人昔語り	淡 島 寒 月
繪 畫 (原色版)	小 出 繪 重
裸婦……………	矢 部 友 衛
鏡の前……………	エビナールの版畫……………
▲土の話	藤 井 浩 祐
▲リノカットに就て	岡 田 龍 夫
▲光琳と一蝶	齋 木 雅 一
▲エビナールの版畫	渡 邊 進
▲三科展所感	川 路 柳 虹
▲名作短解	石 井 相 亭
▲諸家のパレット 安井會太郎氏……………	岡 岡 忠 一
▲芳廬の贗物	

東 京 市 麹 町 區 山 下 町 一 番 一 号

ア ト エ 社

電 話 銀 座 二 五 四 六 ● 振 替 東 京 六 六 〇 〇 二



# QVX

エボツク社  
東京府下千駄ヶ谷  
雑田104

本年十月以降  
毎月一集づつ  
會費一月五十鎊  
月初めに  
拂込みのこゝ

編輯・  
玉村善之助  
村山知義

石版畫集

エルンスト  
トールラー

燕の書

1923年 エーゲーシェーネホッフエグ  
の試中に於て物された詩集

―長邊が夜死んだ。

たった一人で。

鐵格子が屍體の香をした

間もなく秋が来る。

深い悲しみが燃える、燃える。

孤獨。

監譯 長谷川 俊  
校對 山田 六郎  
編輯 村岡 四郎

獸醫學博士 津野邊大馬先生著

◎乳肉衛生

◎家畜藥物學講本

◎家畜衛生學講本

◎畜產製造學

◎牛乳檢查法實驗

大澤竹次郎 共著  
成松柳雄

◎教科用家畜解剖學

中西戰醫學士著

◎家畜內科診斷學

陸軍一等醫官仲藏著

◎馬匹外號學

陸軍醫官石川寬信著

◎猫の疾病及治療法

總編輯 藤村本正為著  
農林專門學校教授

◎養犬大鑑

後悅五郎著

◎衣食實地養畜指南

青羊專攻長崎發生著

◎實驗繩羊飼養法

津野獸醫學博士著

◎家畜牛乳料理

全 定價四十八錢  
送料十八錢

全 定價四十五錢  
送料十八錢

前編 定價四十七錢  
送料十二錢

全 定價四十四錢  
送料十四錢

全 定價四十五錢  
送料八錢

全二 上定價四拾錢  
下定價四拾錢  
送料十錢

上卷 定價四拾錢  
送料六錢

全 定價四拾錢  
送料八錢

全 定價四拾錢  
送料四錢

全 定價四十五錢  
送料十八錢

全 定價八十五錢  
送料四錢

全 定價四十八錢  
送料十二錢

全 定價八拾五錢  
送料四錢



獸醫學博士

津野邊大馬

詩・形式・生活・に對する價值感

萩原 恭次郎

「文學の眞實！」すでに長い間眞實な反省の如く思はれ！彼自身が悲痛なる革命家の如く蒼白の頬を歪めたること云ふ事は、怖るべき身の程知らずであり、ドンキホーテである！彼自身に嘲笑の怒りさへも持たしめる。文學に好する恐怖(巧巧的な敗北に伴ふ幻影)に慄く、野良犬である。主を持たぬ野良犬！あらゆるものに卑下し、嫉み、怯へる、程度の憶病が、文學を「靈の殿堂」として仰ぎ、「象牙の塔」として仰ぎ、「天の笛」として聞か。インスピレーション！お、インスピレーション！(汝の劣弱を諷へ、寄生蟲的な、汝清教徒の自慰の聖歌！)さほどにまで、文學の胃腹によつて、快感を得ると云ふ事は、さほどにまで、自己の虐殺を欲する變態性の陰鬱なる色情である

詩が最高の文學の位置である云ふお目出度さ！詩ばかりでなければならぬと云ふお目出度さ！詩のつくり方！詩の講話！詩がいつまでも彼の第二義である限り、(第一義と信ずる、それ自身が第二義である。詩は、詩をもつて論ぜられ、それこそまつた胃腹であり、御先祖様の遺言であり、家訓である詩のみが、金魚の糞のやうにひり出される。何かを神聖化してゐれば、安心しておられない群羊！神聖化することによつて、自らを購着し、價値を認めやうとする憶病汝自身を常に不自由に、一つの檻をつくつてかきんし、汝自身を定形によつて住まはせれば安眠出来ぬ、神經衰弱者！偶像の義僕！

富が、もはや如何なる飢ゑをも持つまいとれがふ理想情態と等しく、詩は、もはや如何なる俗情如何なるイヅムをもつ詩も、既製觀念の詩！)をも卑劣して、持つこととするもの理想情態である「人間が願望し得る限りにおいて、彼を見るならば、彼は最も馬鹿らしき禽獣である」と云へる。など云つて、詩人は詩をつくり、詩人は詩とは何ぞやを完全に答へられれば、何等かの權利を有しないと云ふやうな心！「詩のために」の下に、言はねばならぬ他へ對する自己の恐怖心にかくれた利巧さ！詩を研討し、詩の向上のためにと云ふ事は、自らを安心させると共に、他の者に對する恐怖心を取りのけ、人々の目に、自分自身を立派なものにする、最も有効な方法であるから！

若し詩！と云ふと、すぐに思ひ浮べられるのは、彼自身の律法と、一般人の觀念に依る、文藝した詩！及びその形式である！「詩」その言葉が能く巧みに巧みに選ばれた言葉ならば、藝術と云ふ言葉が代りて呉れるであらうか！藝術と云ふ言葉は更に起つて生活と云ふ言葉を聯想させる。「我々の生活は……」と、若し、その生活が何等本質的自由を持たない眼瞶の生活(生活らしいと云ふ眞似……であつたなら……)……我々はあらゆる言葉を詩じられねばならぬ。

然し、要求は表現を欲する……要求に自由不自由はない。要求は要求である……表現の最高任務は、要求への直接である……謂はば、「生存條件として」と云へない事はない。全く、彼は彼のために、我は我のために、

あらゆる材料とテクニク……君が、ABCとイロハとを、心のままに詢使して居ると云ふなら、なせも一歩進めて、——X○●△□■◎○<>∧∨+を持つ勇氣を怖れるのか。無駄である……(何が一體君に無駄なものがあるのだ！)若し君が、怠惰の欲情のためか、吟味する精神上の欠亡につてか、現在：君が保つてゐる、秩序や規則や、誇りのために、所有し得る幸福のために、全くそれ等に無關心であられると云ふことは、君の虚榮心と、服従してゐる氣心地好さから、させるのではないか？眞實が見出されてゐると云ふ事程、一般人をして憎悪せしめ輕蔑せしめ得る事はない。君は且つて、ABCとイロハとで足り得たか……足り得やうとしたのではなかつたか？

何か、之が、悪いと我々にまで抗議し得られるものがあらうかと等しく、何が之をせねばならぬと云ふ條件と命令があらう。逃避と無力でさへも、矛盾の價値でさへも、我々は承認出来ぬ事はない。されば、詩の形式を如何に變更しやうか、如何に虐殺、まます扱ひにされやうと、詩のために辯護しやうとする心は、餘りにも詩自らに見え透いたる、君を恥づかしめる辯護ではないか？されば君は君の氣に入つた物までに落へ上げ給へ！何等約束すること無く、約束されること無く

君の作品に繪畫的效果……音樂的效果……戯曲的效果、小説的效果、詩的效果、遊戯的效果、玩具的效果、數字的效果、字的效果、道徳的效果、社交的效果、寫眞的效果、印刷的效果、映畫的效果、物理的效果、建築的效果、觸覺的效果其の他々々を挿入したまへ……する事に興味的なる事を、注告したい。また曰ふ……かかる一切無限のつめこみ主義を斷然と止めたまへ！その何れに、價値あるを思ふいとまなく、君が生きて居る故に、生きたる故に、それ等の存在を認識したまへ！

吾等！低劣！然らば、如何なる神聖化が彼等になされてゐたか。俗悪なれば、低劣なればこそ……と云ふ言葉をすてに通行を許されない。

輕蔑する引き下す！單にそれ自身が持つ新價値！かいらさねれたる口馬は云ふ！主人の爲に、俗悪！低劣！詩でない！何々でない！と、君が君である爲には、君らしいと云はれる事が、彼らしくなるための君の努力であつてはならない。君は君の主人であると共にそれ等の存在を忘れてはならない！又、それ等の存在、何等不自由なく交流しなくてはならない。若し君に、何等かの不自由があつたなら、君は斷然と自由を得るために戦はねばならない！時々場所を選ばず……その戦ひこそ君ではないか！我ではないか！

生きるために詩を！……まつた何物も生きるためにと云つてはならないか！それらの存在の一つをでも、誰か支配し得やう、それらの存在と我れだ！生きるもののために、それ程、善惡の觀念が必要し得やうか！むしろ、まつた、善惡の觀念をキレイ、さつぱりと抜きにしてみては如何だらう。かくせねばならぬ！止むに止まれない無形の力！ドンブまりの力！それらのもつ力！熱！生きるために！まつた生きるためには相異なければ共——もつと、錯雜したためがあるだらう。生きるために！生きるために！生きるために！まがん、こんな言葉を幾度も連發せねばならないのか！

生きるために！……彼がオプティミストであれ、イーガー、ライフをもつものとは云はれない！彼がペシミストであれ！オプティミストよりイーガー、ライフでないこと云はれない！この十九世紀末葉の、近代の二つの典型と！それにしても、興味をもてない生活！更に何物にも興味をもてない生活を！我々は資本主義世界の存在に、まつた大別二つの生活方法を發見する！

一つは意識的構成的生活と、一つは創造生活を！無限に、資本主義世界の存在を享受し、興味的に暮すもの、一つは飽くなき資本主義世界の存在に立たんとする生活！然し、その何れに價値あるを言ふ勿れ！君自身の生活に對して若し、君に矛盾の生活があるならば、その矛盾にまた價値がないとは、誰一人言へないと言ふ彼自身の價値が、價値のないものと彼自身が價値がないと言ふ彼自身の價値であると誇る價値が、價値のあるものと云へないやうに！

實際、われわれはこれらの言葉を、ピストルの號砲か、ラサオでもつて發したかつたのです！—— 第一步！



●三科展合評・續き(十三頁より)  
オ、岡本はテクニシャンだときいておたが、左程でもれえや。俺の友達尾形の龜さんなんざ、もつとテクニシャンだぜ。こんなものを描いても楽しめるんならカンパスにのぐさい塗つてりやたのしいだらう。描く者のたのしみ他、こんなものは何の価値もないだらうが、まあ、天道がぬれさえずりや楽しいなんて、小便をして人生無上の快樂だと心得る輩だな。

オ、大浦氏、吉！築地の土方監督が、君の繪を絶対に褒めておましたよ、おお諸君、三科會員諸君、私も、つたないながら、秋の展覧會には出品しますからどうぞ推センの氣にあづからして下さい。私はいくら待つても中々あなたが見えやうな幸福な身分にはなれそうもないんです。お、君、銀座尾張町のタバンのウエトレスさんはシヤンだれ！これもやつぱりとどかぬ思ひか。

ケ、いかにも此處は銀座のタバコだ、ビールと蓄音機と女給さんの權力意志だ。だ、だ、だがなんだい。いくらホヘたつて、唸つたつて初まられえや。初

まつたは俺の頭の中の治安維持法案位なものだ。さて、この貴重な法案を、この三科會員諸君に如何に適やうするかだ、まてよ、こいつも初まられえぞ野良犬と巡査と泥棒と乞食の權力意志も三科以上の醜態さうにはなれまいからなア。所で三科も岡田龍夫以上の醜態さにはなれまいつて、ハッ、ハ、ケ。――あばよ――さらばよ――。

●ゲエ・フル合評・續き(十四頁より)  
ハ、命つてみると、みんないい若者なんだがこみみなそろつて、すぎとほつたり、微細になつたり、飛行車にのつたり泡を立てて消えたり、エナメル塗になつたりすると情なくなるぞ！

ハ、君達にもう少しセンチメンタルにならなければいけない。本誌の中で誰かが文藝戦線を稱して、無だと云つたが、君達の存在は害悪である。君達ほかの田舎者聖ホーロの靴紐を解くにも足りないものだ。君達に實に下らない道樂者だね。或る場末のバーのおやぢが、研究費に一月九十圓から掛けて、一つの新しいカクテルの調い法を發明

して、俺は充分に偉大な存在だと思つたさうだよ。

イ、ええ、この生意氣な小僧め、幾度繰り返しても同じことだ。透明な、腹の無い従つて糞さへたれ得ない、ののいな、従つて子の産めない條虫め。  
バ、こんな事を云つてると、タバコがまぶくなる、さあ、早くお月様とシルクハットの結婚式に行き給へ。急がないと遅刻するよ。(をわり)

●綜合雜誌の使命・續き(八頁より)  
十、視力聲音學。  
器管々能の統一 觸覺・嗅覺  
十一、組織問題。  
宣傳形成。  
永續の精力集中。  
十二、藝術。  
映 影。  
映 影。  
レントゲン撮影。  
體 操。  
硝子家庭。  
部室沈下の計劃。  
部室扛學の計劃。  
制作、寢、浴室。

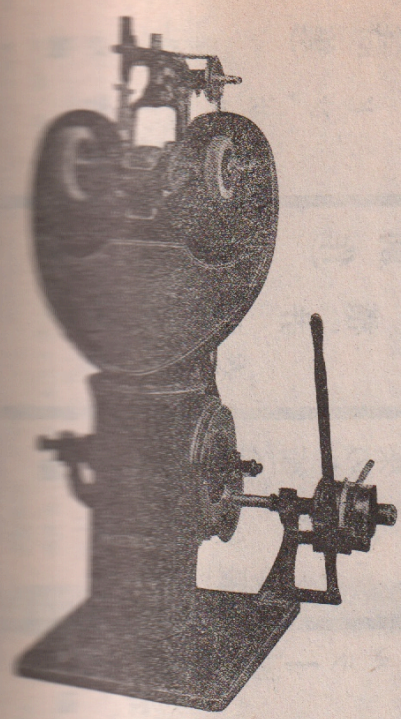
同型家庭。  
其他、其他。  
一般に多くの挿話(本文中、又短い説話を附した。それが最も有効な報導であるから)

最後に彼は、歐羅巴には今日既に、それぞれ、優秀な綜合雜誌が澤山刊行されておるけれども、我々は更に生命あり、清新なるそして未完成的な撥刺たるものを要求すると書いてゐる。

之を以て「マゴオ」復活の祝辭に代へんとするものである。(了)

●ジャック・ヴァシエと言ふ男(八頁より)  
もちつたのではないかとのことだ。  
それから、三ヶ月許りたつて、ヴァシエはひよつこりパリへ出て来た。ウルクの運河を散歩した。それからいろんな面白い話もあるが、(もう郵便屋が来る時刻だ。ゆつくりしてゐると明日の締切に間に合はなくなるから止める。ジャックヴァシエがナントで自殺したのは休戦條約が締結されて間もなくだつたをうだ、何んでも四十グラムの阿片を(郵便屋さん一寸待つてくれ)

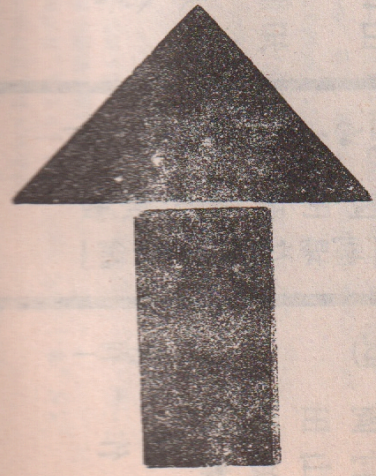
二五、五、一九。



●三科展合評(二十頁より)

それは、このD氏の繪、  
特別の周囲には、凡そいかなる、例へば  
政治學、社會學、政治學、工學等々、  
のやうなものと見えず、何かか、超人的  
の、それはははは、熱想的で、  
、周囲が圍繞してゐるのではあるまい  
か。  
、恰も無限でもある  
、D氏の、  
、見つけてゐた時、その時、  
、マアチナンカと言ふ少女畫家  
、失態に、D氏の肩ををつかん  
、  
、GACHIBREと引つかけて了  
、  
、これはおかし、と思つてはくま  
、、P.E  
、、  
、D氏なんて、聞いた  
、、そんな  
、、何しろ  
、、

(をわり)



# 殺人形

兼古殺一

蒼褪めた桃色の淫靡が過去の3×9=45の黒棒へ抱かれて眠る

今

忘れ得ぬ冷血の逞しい無数の手が落ち延び逃げ失せ嘲笑ふ

## 空間

追跡し邁奔し逼迫し錯綜し交合し泣笑する呪詛と自嘲の焦點目掛けて卒倒する

## 魂の悶絶

微かに救ひの輪を投げる沈黙の黄ばみ色失せ土気色の泣きぢやくる壁紙は

## 愚痴朦昧の道化役者

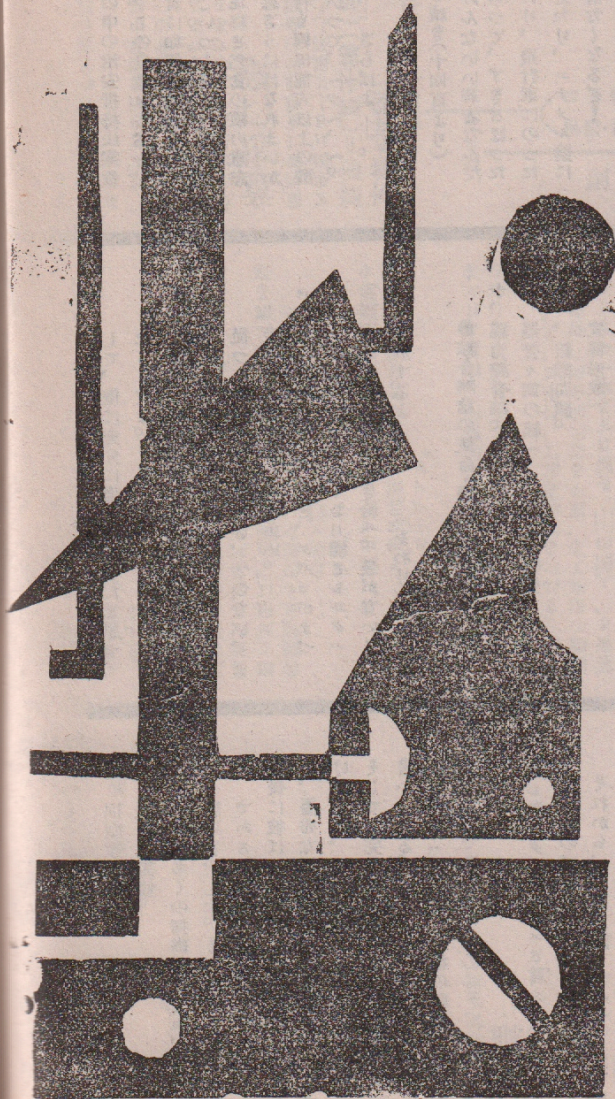
窓より忍び入る黒色の蒸氣に女の髪の毛は水々しく微動する。人形を咬へた唇へ怠らぬ涎の血は粘り双手の爪に疊の目を数へる妄執は

## 溺死した水晶の撓まぬ破片

生命の諧謔が繩を促して道北着の圓點を又一つ小さな踵へ叩いてゆく

## 全身

今全盛は場末街二階裏のモルヒネ漫歩語



宮永部

# 白痴の夢(詩集)

壹圓貳拾錢

ドン・ザツキ一著

ドン社

# 大愚(創作)

貳圓

横井弘三著

春鳥會

# 現在の藝術と未來の藝術論文集

貳圓

村山知義著

長隆舎

# エルンスト・トルラー詩集(燕の書)

壹圓

村山知義著

岡田龍夫挿畫

長隆舎

# カンティンスキー

壹圓八拾錢

村山知義著

アルス

# 死刑宣告(詩集)

一近刊一

萩原恭次郎著

岡田龍夫挿畫

# 黎明が來たぞ(論文集)

一近刊一

萩原恭次郎著

岡田龍夫合著

村山知義

# 夜明け前の混沌め!(戯曲集)

一近刊一

岡田龍夫著挿畫

附録「劇場及演劇革命論」

# ラツパ小説

一近刊一

岡田龍夫

村山知義合作



昨夜の洪水が俺の宿命を流産した俺の胴體は錦を失つて航走する……………何たるアンタンの空模様だ！その空中にあいつの首が浮遊して風船玉が笑ふではないか

ソラ！——投げキッス×××旋回×爆破

●海だ！舞踏だ！テンポだ！船だ！流産だ！女は氣體になつた！殺倒する旗だ！

大空の絞首臺●●●●●

×××××水平線が脱落した軍艦が蟹のやうに歩つてゐる

ノロマな大陸が煙突の中へ沁り落ちた飛行機がマストにぶらさがつて悲鳴を上げた

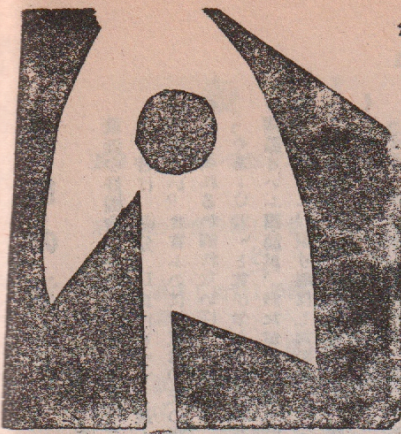
——何でもないさそれだけさ

脳髓の氣象臺で時計が止つてゐるんだ！

……………パイロットが波止場へ落ちて行つたマドロス・パイプに鷗が糞をひつかけて飛んでつ行た——。

●

モンツイメンタルな月めが出たのであいつは今夜も燈臺のテツベンに登つて忘れた歌を思ひ出さうとつとめてゐたが結局——無神経な風景に腹を立ててあいつは戀人の風景を海へ投げこんでしまつた——！



子供をつれて、登ひた母親は、米屋で財布をばらして、米を買つてゐる

——氣も買なければならぬ

——薪も買なければならぬ

米屋で湯沸はチン、チン、と鳴つてゐるハツヒを落した男は一杯の電氣ランプをチビリ、チビリと眺めてゐる

——さんぶりの中に

手をつつて、錢勘定をやつてゐる

煙の出ない、煙突の上で、太陽はまたいでゐる

——今夜はどこへやう

——公衆食堂へも連れな

——罐豆をかざらう！

——太陽を眺ま

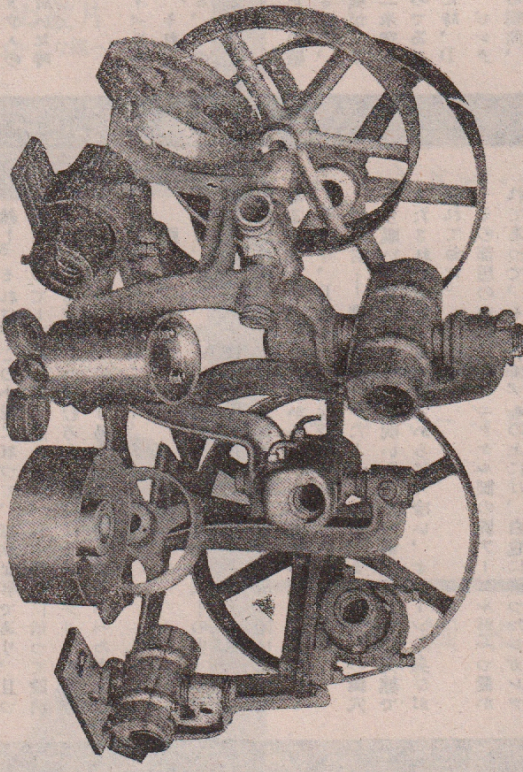
風と汗と、マストのすいかけて、横町はいつぱいになつてゐる

——意兵は馬の上から何を探してゐるのだらうか

——だれだつて、暗い露路で、黄い良心を喰ふ殺し始めるだらう！

工場地帯三篇

田 勘 助



●長屋の晩方

——おつかあ……、まんまが喉ひたい出しながら泣いてゐる

——あの長屋で、赤ん坊は、肺臓を吐き空の星は西風を呼んでゐる

冬はしのび足で這ひ寄つた

きつく——晩方！

——おつかあ……、まんまが喉ひたい出しながら泣いてゐる

●行路病者も重い太陽

彼は電氣柱によりかかつて、いぢめてしまつた、二月の空をかみあげた

——さいつの今となつては！

太陽も金色の鉛かききつて、觀摩器の上たうづまうつてゐるのになつてゐるのだ

——とぼく

豆腐屋の、ランプがびびいた、かなたで犬が吠えてゐる

一九二五、四、二七

●一本二條の鴉島屋は、バム、バム、と炭をかとしてゐる

牛井屋で湯氣が立つてゐる

蛙と青大将

野 村 吉 哉

かれは鳴いた。

かれは、その得意とする一筋を、今こそ思ふ存分に鳴きつづけてみたいと思つた。

夕陽がいま沈みかけてゐた。

土境のやほらかな青草の上に、チヨコナンと坐り込んでゐるかれの黄色い背中にも、夕陽は赤々と射してゐた。

かれは、その鳴きつづける韻律のなかに、たそがれの寂莫とした世界が込み込んでくるような氣がした。

トテモ爽快な氣がして、かれは更に一段その音を張りあげて鳴いた。

——グロウ、グロウ、グロウ……

その鳴き方は、かれの屬するグループの中でもまったくかれ獨特のものであつた。

かれは、久しい年月の間をその鳴き方の研究のために費したのだつた。そして、やつとこのことで突出することのできたそれは、じつに群蛙の追従し難い獨自性をもつて、夜の田圃の中でも異彩を放つてゐたのである。

しかし、かれは、あらゆる困苦を味つて創造したその鳴き方が、いかに貴重なものであり、かつすぐれたものであることを充分知つてゐた。

かれはそれで、その立派な鳴き方を平常はあまり用ひなかつた。即ちかれらの仲間や蛙達の間に行はれる目出度い會合の席上であるとか、或は友達の一匹が、悪むべき大敵であるところのかの青大将のために、ヒツ捕へられて飼食された氣の毒な犠牲のための追悼會の席上とか、乃至は彼自身、極めて肥え太つて美味いポウフラに有り付いた喜びの瞬間であるとか……に限つて、その美しい鳴き聲がこの野のなかに起るのであつた。

蛙共は、この異常なる天才の調べを渴仰してゐたが、そんな具合にかれが常に安賣りをするのをしなかつたのでスコブル珍重されてゐたのだ。

さういふアリガタイ鳴き聲を容易に公開する今日のかれを蛙達は氣でも狂つたのではあるまいかと心配しあつた。

……………さうだ。かれは氣が狂ひかけてゐるのである。かれは生れてはじめて味つた歡樂のヨロコビに有頂天になつて今にも息が絶えるのではあるまいか、と思はれるばかりに全身の血潮が湧き立つてゐたのである。

かれは、ア、隣田のことを思ひ出すばかりでも、氣が遠くなるような氣がした。

かれが、かの怖るべき仇敵である青大将にヨックリ群路で出會つたのは、今日の恰所表すぎであつた。

かれはそのセツナに思つたのである。

かれは、かの怖るべき仇敵である青大将にヨックリ群路で出會つたのは、今日の恰所表すぎであつた。

かれはそのセツナに思つたのである。

かれは、かの怖るべき仇敵である青大将にヨックリ群路で出會つたのは、今日の恰所表すぎであつた。

かれはそのセツナに思つたのである。

かれは、かの怖るべき仇敵である青大将にヨックリ群路で出會つたのは、今日の恰所表すぎであつた。

かれはそのセツナに思つたのである。

かれは、かの怖るべき仇敵である青大将にヨックリ群路で出會つたのは、今日の恰所表すぎであつた。

かれはそのセツナに思つたのである。

かれは、かの怖るべき仇敵である青大将にヨックリ群路で出會つたのは、今日の恰所表すぎであつた。

かれはそのセツナに思つたのである。

かれは、かの怖るべき仇敵である青大将にヨックリ群路で出會つたのは、今日の恰所表すぎであつた。

かれはそのセツナに思つたのである。



沿線

小野十三郎

日曜日

草つ原には蓮華が咲いてゐる

人間の腸はストロープのやうに温まつた

青い主人を見よ

彼は一家族の旗である地圖である時計である

「筑波山だよ」

と指さした

ガキ共の眼は紫色の霞の中にある

じつと視てゐると蒼褪めてくる太陽

「いけねえ、四時の汽車に遅れるぞ」

主人は吸殻を癩くに捨てる

幸福が廻れ右をすれば夕暮の都會で雑炊がブ

ツブツ音を立てる、

快晴

日向わ砂や河岸のやうな一日が

鐵道を走つて行く

それは今鷓見あたりの鐵橋に響いてゐる

往復切符とチンドキツチと

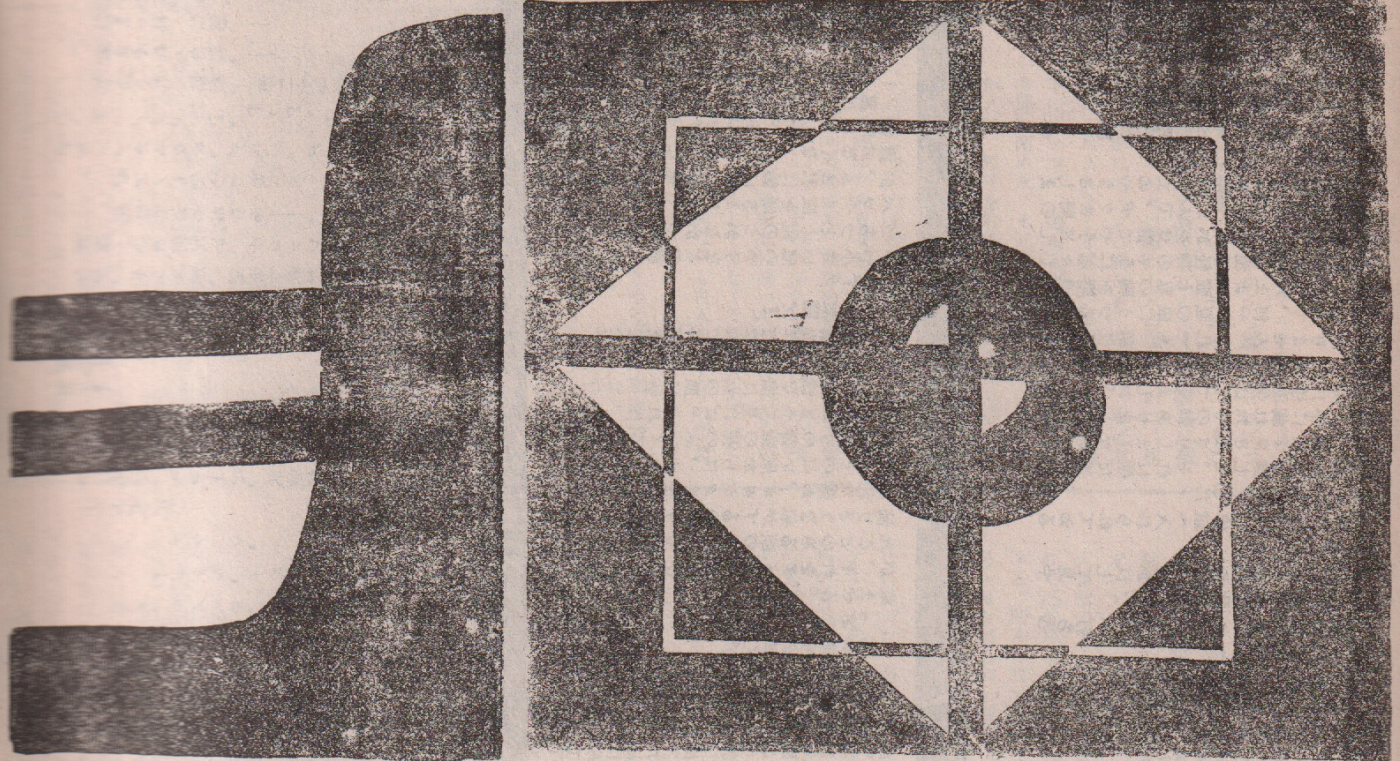
街角にぶらさがるニコニコ大會よ

代々木では飛行機の音運びがある

香具師よ

喜べ

東京は今日曇り曇りで一ぱいだ



窓から覗いてる奴ら

岡田龍夫

ウヌウヌウヌメが！ とばかりかれは飛びかかったのはあつたが、次の瞬間、かれはずでに氣絶シチヤツタのであつた。

ふと我に返つたとき、かれは魂が天にのぼるような快感を身に味つてゐた。

いよ／＼オレもアノ世へ来たのかシラン……と思つて首をあげたかれが見廻すとやつぱり醉路にゐることを發見して屹驚した。

傍にはさつき青大将が、鎌首を地につけて、長々と寝そべつてゐた。その二つの瞳からは、冷い理智の影が消えて、燃えるような愛撫がうるんでゐた。

かれは、黙つて考え悩んでゐた。

青大将も黙つて考え悩んでゐた。

……しばらくたつてから、かれは、處女のごとくほにかみながら、鎌首をほの赤らめて語るきれんの言葉を聞いたかれは、わななく胸をしづめながら、黙つて青大将の鎌首を抱きしめた。

かれは今まで消えてゐた炎が、ゆら／＼と燃え上るような氣がした。

かれは、何物を捨てても惜しくないと思つた。

やや長きキスを交して別れたかれと青大将は、各々自分の住居へ戻つて行つた。……新しく二匹が同棲するたのしい棲家のこと、これからの二匹の幸福な生活のこと……二匹はいづれも、うれしさに溢れてゐた。

かれは、その新しい戀人と結婚するために、今までの畔の草蔭の住居の後仕末も終つたので、土堤の上までやつて来たのである。

約束の時間には少し早かつた。

青大将「いや、かれの新しい妻は、まだその姿を見せえてゐなかつた。

夕陽の沈みかけるしほしの時間は、かれの珠に愛するところであつた。

かれは、我知らず得意の鳴き聲が口から溢れ出るのをどうすることもできなかつた。

思ふ存分、聲のかざりに、かれは鳴いてみようと思つた。

「グロウ、グロウ、グロウ……」

ふと、かれはやさしく草のすれるびびきを耳にして我に返つた。

そこには愛妻である青大将の姿があつた。「すいぶんお待ちになつて？ だつて父や母はともあなたとの結婚を許してくれさうありませんし、私、黙つてしのび出るのに「僕だつて来たばかりサ…… オヤお前の頭の上は士だらけだよ」



ふらふらとふあつと

村山知義

一 こんどと夜になつてゆく。凄いものだ。この廣場。大通りが五つ集まつてゐる。その五つの角のうちの一つで、今や新しい藝術の妊娠が迫つて、人々は氣がせわしい。仕事を貰つておかないものまで決して落着いてはおられない。

人々の心が、こんなにも、リキリキリキリキと集まつてゐるその當の角には大きな石の門がある。その中の地面はそこからほんの片隅が見えるに過ぎないが盛んに醜態してゐる。桃色の湯気が夜目にもしるく、ゲンゲンと立ちのぼつてゐる。リ、リ、リリリリリ、パーンと紫色の光線が絶え間なく不気味な機關銃發射の音で眞黒な空間の一部を大球形に照らしてゐる。硝子張りの巨大な建物はその中に満ちてゐる化学的な虚勢的な光の爲めに極度に膨脹してしまつてゐる。此の華々しい妊娠を廣場から見つてゐる人達は、今にも何處か闇の中から此の緊張し切つた硝子の光團の中に金屬性緑色の飛行船がその鈍くかがんだ頭を靜かに音もなく突つ込みはしないかとばらばらしてゐる。

メカホンを通して大聲で叫ぶ監督の聲が、人々の氣の附かないうちに段々と凝結してゆく闇の結晶體に妨げられながらまわりを一面につんざく。不思議な衣裳を着けた群集たちがチラチラと門の中に動くのが見える。

メカホンを投げつける音。女王の簪が床に落ちた音。そして狂ひあつたリキリキリキと人の胸を締めつける光とも音とも知れないもの。ウーファ撮映所はかうして闇と光の肌衣の中で脂でつるつるした大きなお腹を波打たしてゐるのである。

私は丁度撮映所と向ひあはせの角にある厚

い石造のナポレオン・カフェーの入口に立つて胸を締めつけられるやうな思ひにせつづまつてゐる。種々の人造光線のために、そこらには益々曇つて重く霧ばんでくる。廣場は磁場となり、人々は鐵化した右脚のために、段々と速かになつてこ舞ひをし初める。私はたうたうたまらなくなつて、カフェーの暗い廊下にはいつて、磁場と私の間に重い樞の木の下を閉めた。そしてステッキを左手に持ちかえて、帽子を右手に持つて突き當りの磨硝子の扉をぐるりと廻して大廣間にはいつた。

煙草の煙で濛々となつた此の部屋の中で第一に眼についたものは後向きに椅子をまたいで手に持つた大きな寒暖計を奏でてゐる眞裸のネグロであつた。熱帯の無慈悲な太陽が燒き切つてしまつたので褐色の僅かばかりの毛が彼の小さな後頭部に残つてゐるに過ぎなかつた。ネグロらしくもなくその腹はふくらんでゐた。腕なども白人をつくりの脂肥りであつた。ただ色だけは眞黒だつた。寒暖計は細いぐるぐると捲きつく音を立ててゐた。

その次に眼についたものはこのネグロから二三間になれたテーブルの上に立つてタクトをとつてゐる女の姿であつた。彼女の髪の毛は文字通りの命髪で、それがふさふさと空中に浮んで彼女の白い丸顔を後光のやうに取り圍んでゐる。彼女の着てゐるものはたつた一枚のタオルである。左手でタオルの合せ目を押さえ、右手の手頭を胸元から出して赤い指揮棒を振つてゐる。足は膝から下が露れてゐる。可成り肥つた柔らかな足首にくぐれのあつた足である。唇は赤く丸く、眉毛は長く丸い。眼は眠さうに半分つぶつたまま。タオルの背中にはネービー・ブルーで大きく「サーモメター」と書いてあつた。一人の斷髪の女詩人がその足元の椅子に腰かけて、鉛筆で額を支へてしきりに詩を考へてゐる。

どのテーブルにも受けたる男女が煙草の煙を吐きだしながらかつてゐる。

ズケツブツク一面に無限の線と角との組合せを描き並べてすつかり沈溺してゐる紳士もある。文字をヒラミッドのやうに積み上げ、数字の記號の助けを借りて感覺の方程式を造ることに没頭してゐる少女もある。マホガニーのテーブルの面や革の安樂椅子の脇や天鰐絨のカーテンなどを白魚のやうな指で觸れて感覺享樂をやつて恍惚としてゐる青年もある。凹んだ眼でまわりの人々の顔をちらちらと見ながら何か氣味の悪い企みを考へてゐる淫賣もある。

私はやつと窓際に一つの空席を見つけてそこに坐つた。坐つて眼を放つと五六尺先のテーブルの上に一人の美しい少年があぐらをかいてゐる。肉體の露はれてゐない部分は黒天鰐絨のびつたりした服である。タルカン、パウダーのしつとりとしみ込んだブラチナ、ライキヤのやうな肉體は柔らかに柔らかに伸縮してゐる。伸びきると少年は淋しげになつてこり笑ふ。眞白な小さな齒がきらめく。縮まると微かに若しげな眼をします。が、いつの間にかその少年は昇華してしまつて、天井に直徑一尺程の白い圓を残すのみとなつた。

その時私は背中に例の軽いリキリキリキキを覺えた。とたんに硝子窓が外からコッコッコッコツと叩かれた。私は丁度窓を背にして腰かけてゐたのである。

あー  
私は呻つてギョツとして立ち上つた。しかし殆んど同時に私の次のテーブルに坐つてゐた男が立ち上つてこつちを向いた。その一瞬間に私はその男の顔を全身でもつて呑み込んでしまつた。その男の顔はかうであつた。飛び出した頬骨、舌穿ち落ち込んだ頬の肉、ペろろりと垂れさがつてゐるぬるに濡れた、淫猥な唇、割裂されたやうな乾いた皮膚、凹んだ暗い穴の中に飲こまれた硝子玉の眼。私は唇を震はしながら云ひかけた。

「こんらつと」すると彼は指を唇にあてて私に黙らせて置いてうしろの 子窓を開けた。

夜のつめたい空氣と一緒に再びあざわめきと光線と磁力がどつとばかりに流れこんで来た。

「おーら」  
と監督の叫び聲。カターリ、女王の響。ギーンギーンと緑色の光線が闇をつんざく音。そして磁場の敷石に觸れ渡る人々の鐵の脚。窓の外から鳥打を冠つた綺麗な顔をした男が首を出して云つた。

「もう五分であんたの出ですぜ。」  
「おーら」

隣の男は窓を締める私に向つて腰ををろしてホケツトから煙草を探り出しながら云つた。

「もう五分で私の出ださうです。」

「こんらつと」

「しーつ」  
彼は煙草の箱を私に指し出しながら云つた

「よござんすか。あなたのあつしやる通り私にこんらつと。ふあいです。だがあなたは私さつきからあなたの方ばかり見てゐたことに氣が附きませんでしたか。」

「ええ、だが私は、あの、タルカン、パウダーの少年が昇華してしまふ迄は——」

「それ、その少年が私なのです。一遍昇華してそれからあなたの隣りへ腰かけたのです。ごらんさい。もうありませんよ。」

見ると天井にあつた白い圓は跡かたもない「さうです、さうです、あの少年はたしかにあなただです。こんらつと。ふあいで。」

私は殆んど夢中になつて呼びかけた。

「しーつ。よろしい。では、こんらつとだけはおん下さい。その代り、ぶらざあ、ふとあいと呼んで下さい。」

彼は私の方へ身を一層かがめながら續けた

「こんらつとといふとトカゲみたいなんです。でせう。ただでさへ私はトカゲ見たいなんですから。」

彼は眞紅な口を耳まで裂いて、両手を肩に

くつつけてヒクヒクと動かして見せた。  
「ではよろしい。一緒にゆきませう。もう私の出です。」

さう云つて彼は立ち上つて厚い外套を着て襟を立てて黒い帽子をグツと眼の上にさげて歩き出した。入口で彼は私を先に親切に押し出した。

二人は並んで盛んな磁場を真直に横切つてウーファ撮映場の石の門をくぐつた。

汗をじとじとたらした、きな臭い體臭を立てる監督が手を擴げて私達に笑ひ崩れた。私はぶらぶら、ふあいとが行くまゝにあとからついて行くどふあいは小さな部屋の中へはいつて早速、造り初めた。たださへひつこんでゐる眼の縁を黒く塗つて一層引つこませるのである。唇へはヌルヌルした脂のやうなものを塗つた。

「監督が何時の間にかまた手を擴げて私達の前に立つてゐた。笑ひ崩れながら、  
「もういいかい？」  
と云つた。

「これでよしむし」

さう云ひながらふあいは小さなスポイトを取つて兩方の眼球に注射した。すると黒いすぢが氣味悪く、網のやうに、眼球の表面に爬つた。彼は立ち上りしなに、血の上の蜘蛛を 匹つまみ食ひした。そして私達は此の部屋を出て行つた。

木の靴を穿いた少女達はもうみんな勢揃ひしてゐた。頭には白い頭巾をかぶつて、腕は肩から露き出してゐた。胴衣は黒の天鵞絨でびつたりと身體にひつついてゐた。スカートは短くふくらんでヒカヒカと輝いてゐた、脚には靴下を穿いてゐないので、可愛らしい膝つ小僧がにこにこ意味ありげに笑つてゐた。少女達はみんなで四十八人ゐた。それが動くとき香水の臭と甘酸っぱい體臭とが波をなして空中に擴がって行つた。

ダンスの教師——頭が禿げてづんぐりしたおぢいさん——が手に鞭を持つてやつてきて「一、二、三、四。一、二、三、四。」とタクトをとりながら豫備教練を初めた。脚が一齊にあがつたり後に揺れたりした。木の靴が地面に觸れて朗かな朗かな音を空に響かせたりした。ダンスの教師は容赦なく鞭で彼女達の肩や脚を打つた。豫備教練が終わるとダンスの教師は背を丸くして監督に並んで椅子に腰をかけた。その頃十六歳だつたりリアン、ギツシユは手を腰にあてて彼女達の先頭に立つてゐた。そして放心したやうな眼をして闇の中をみつめてゐた。

「よし」  
と監督がメカホンを通して叫んだ。すると天幕の中のオーケストラが音を立て初めた。彼女達の頬は一齊に赤くなつた。リアンはきつとなつて頭を二三度強く振つた。そしてみんな一度にバツと脚を上げ、腰をひねり、身體をくるりと廻し、トンと木靴で地面を打つて兩手を打ち合せ——めまぐるしくすまじく踊り初めた。キヤメラは廻轉してゐる。光線はリ、リ、リリリリと一層強く音を立ててゐる。陣痛だ。口は開いた。水は流れ出した。胎兒は廻轉した。汗をたらし唇をふるはせながら監督はメカホンを差上げて

「ふあいと——」  
と叫んだ。ぶらぶら、ふあいは聲と同時に踊の真中へ飛び込んだ。少女達は聲も立てずにふあいを襲つた。ふあいは蹴倒され、なぐられ、踏まれ、唾をかけられた。ダンスの教師は椅子から、飛び上つて鞭を空中でビシ、ビシ、ビシと振り廻しながら、「そこだ！そこだ！」

とつんぞくやうな叫び聲を擧げた。ふあいは口から泡を吹いた。額からは血が流れた。唇が裂けた。血管の盛れ上つた手は土を掴んで痙攣した。キヤメラは近くに滑り寄つて廻轉した。  
監督が鋭く笛を吹いた。出産は終つた。キヤ

メラの廻轉はやんだ。少女達は息を切らし、ずれた肩紐をたくし上げ、亂れた髪をかきあげ、ハンケチを出して汗を拭き、お互に眼を見合せて、「熱い、熱い」と云ひ合つた。醫師と看護婦が馳けて来て早速ふあいを椅子に抱きあげて海綿で身體中を拭き、血を取り去り、傷の治療をした。監督はシヤツのボタンをはづし、帽子で風を入れながら、皆に向つて、  
「やあ、御苦勞、御苦勞」  
と云ひ續けてゐた。そこへソーダ水を持つた白いボーイがやつて来たので、皆は一心にそれを吸ひ初めた。

丁度その時この撮映所の門の左手の俳優採用所の窓口へ一人の男がやつて来て、何か仕事をやらせてくれ、と云つた。その男は一風變つてゐた。ぱらりと垂れた毛は顔の半面を覆つてゐた。残つてゐる片方の眼はビール樽の口のやうだつた。眼はどくどく荒地で、黒い細めのネクタイを蝶々に結んでゐた、唇はたるんで左右に擴がつてゐた。差し出した名刺には「ばぶろ、びかそ」とあつた。

窓口の係の男はその名刺を持つて、ソーダ水を飲んでゐる監督の所へやつて来た。監督の横へ立つてゐた私はふとその名刺を見ると口を出した。  
「へえ、びかそがやつて来たんですか。」  
「おや、あなたの御友人ですか。」  
と監督が云つた。

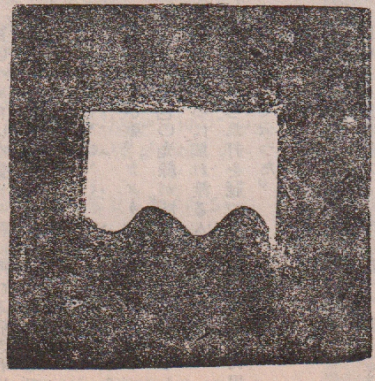
「いや、友人といふわけではないんですがよく知つてゐます。つまらない繪描きですよ。煙草をすつて冒險小説を讀んでいつも同じやうな繪ばかり描いてゐる男です。」  
するとリアンが急にこつちを向いて、  
「びかそなら私も知つてゐるわ。つまらない人ですわね。私が行つて斷つて来てあげませう。」  
と云つて監督の眼をうかがつた。監督が眼の縁に皺を寄せてうなづくと、彼女は今度はふ

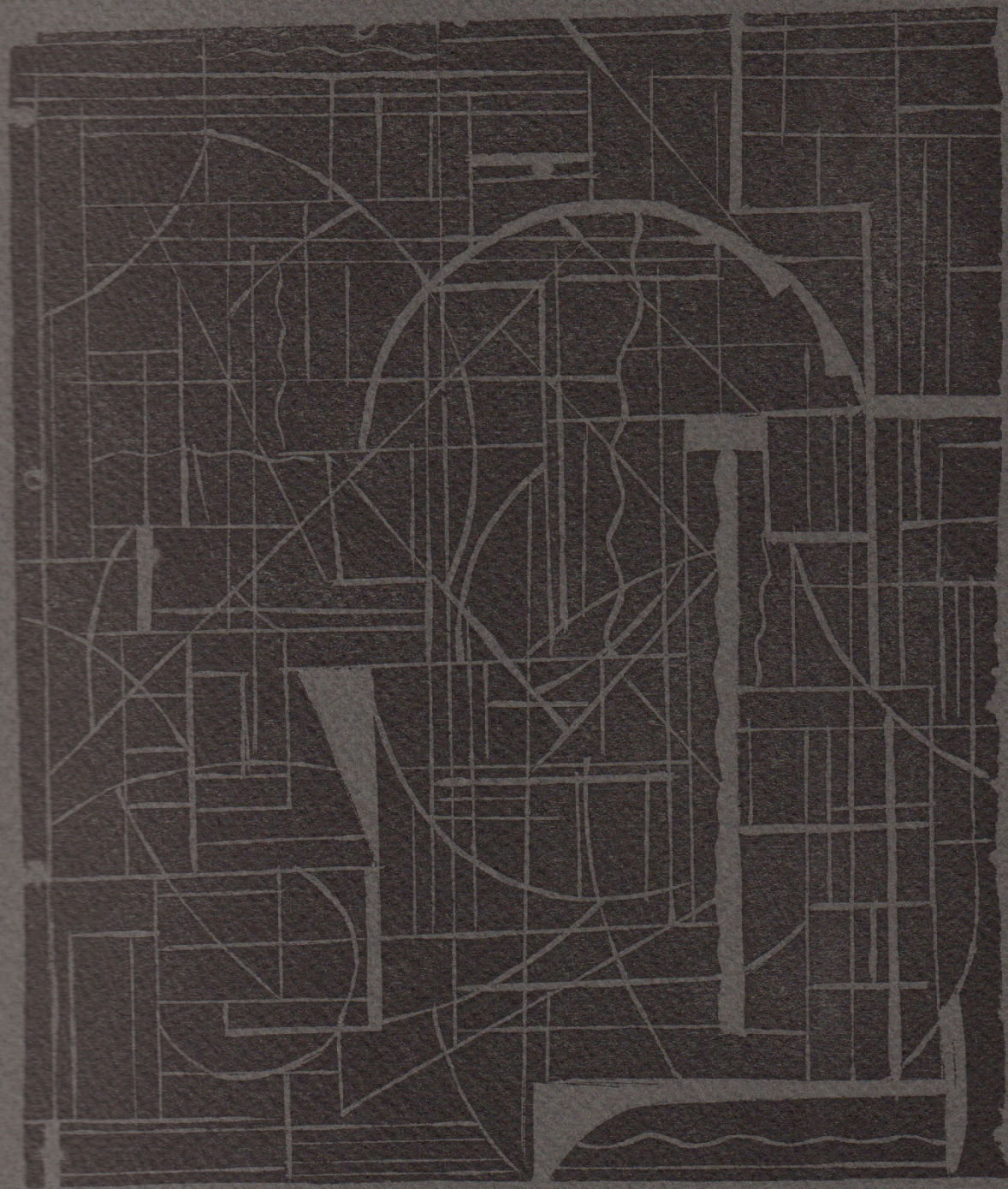
あいつの方に向いて云つた。  
「ね、ふあいとさん、知つてて、こんな歌がばやつてゐるのよ、あのね——」  
そして彼女はちよつと天の一角に眼をやつて小さな澄んだ聲でにこにこ笑ひながら歌ひだした。

「びかそもう古びてパリどころか世界中で騒がれなくなれり  
ヒカピアももう今では  
(ちよいと感心だわね)  
方程式など書かずなりけり

すべては化物の如く  
またグダイストの如く  
和蘭建築の中にぞ往むなれ  
かかる時にあたりてひとり  
肉についたる  
我が美は燦然として輝くなり——

「そのおしまひの一節だけは餘計だね。」  
とふあいが苦笑しながら云つた。  
「たんと馬鹿におしよ」  
とリアンはおつ母さんみたいな作り聲で云ひ棄てて、もう俳優採用所の方の間へ消えて行つた。(以下次號)





矢橋公磨

獸醫學博士 津野慶太郎先生新著

◎畜産副生物利用法

全 定價金壹圓五拾錢  
郵送料金六錢

時事問題タル我農村振興ノ一大要素ハ農家ノ純益收入ヲ増加スルニアリ  
其手段トシテ畜産事業ノ普及發展ヲ説ク者多シ而モ斯業ノ普及ト發展ハ  
畜産物利用法ノ如何ニ左右セラル隨テ農業、獸醫、畜産教育ニ畜産副生  
物利用法ヲ指導スルハ實ニ今日ノ急務ナリ本書ハ津野博士先生ガ斯業ノ  
研究ト内外國ニ於ケル其實際調査ノ爲メ歐米ニ渡航スルコト二回内地各  
府縣ノ實況ヲ視察スルコト數回ニ及ビ二十年ノ長年月ヲ費シ屠畜斃獸  
ノ利用骨膠業ノ重要事項ヲ叙述セラレタルモノニシテ學生及實業家參考  
書及教科書トシテ唯一無比ノ良書タリ陸續御購讀アラシムコトヲ希望ス

獸醫學博士 津野慶太郎先生著

◎獸醫行政及警察學

全 定價金參圓五拾錢  
送料十二錢

本書ハ獸醫行政ノ綱要、獸疫警察、畜産行政並ニ家畜保險ノ要旨ヲ説述  
セラレタルモノナルニ第三版ニ至リ五十餘ページノ増補ヲ附テ現行官  
制、重要關係法規及畜産政策ノ變遷ヲ知悉スルノ便ニ供サル農學校獸醫  
學校ノ教科書ノミナラス獸醫諸賢參照スベキ好資料ナリ

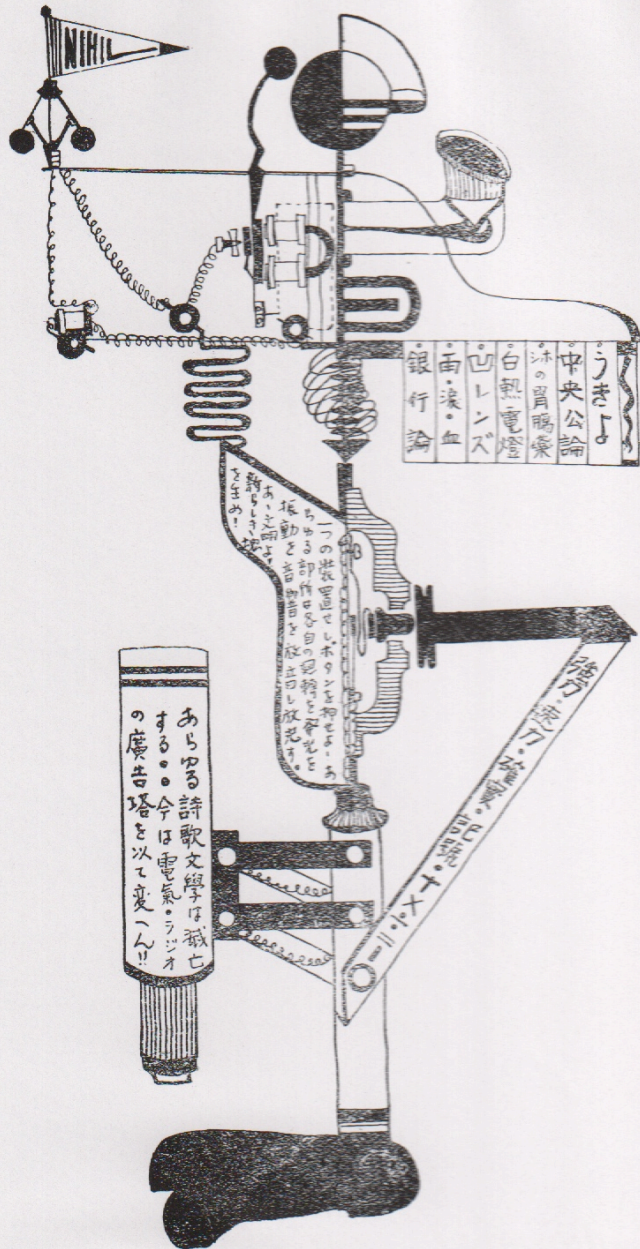
たとへば、パツカスとニンフの夢幻？

隅田に浮ぶカモメへの愛撫

カナラス愉悅と満足とを御感じになりませう

カフェーカモメ。—————カフェーカモメ

向島須崎町85



# 萩原恭次郎

注目すべき 世界の雑誌

MA	L. Krasak, Amalienstrasse 26/17, Vienna
HET OVERZICHT	F. Broekelaers, Turnhoutsebaan 105, Anversa
ZENIT	L. Mitzitch, 12, Rue de Birchevaune, Belgrode
DE STIJL	Theo Van Doesturg, Kijkvlietstraat 18, L'Aja, Olanda
DER STURM	H. Walden, Potsdamerstr. 134-2, Berlin W 9
NOI	E. Prampolini, Via Tronto, 89-Roma (36)
L'AURORA	S. Pocarini, Via Barzellini 3, Gorizia
INTEGRAL	M. H. Maxy, Calea Victoriei No 79, Et 1, Bucurati
MANOMETRE	E. Malespine, 49, Cours Garibaldi, Liere,
7 ARTS	P. Bourgeois, Boulevard Leopold II 271, Bruxelles
G. □.	H. Richter, Escheustr. 7, Friedenau, Berlin
PERIODE	Rue de Courtrai 55, Bruxelles-Ouest
BLOK	H. Stazewski, Warszawa ul. wspolna 20m. 89
MAVO	Kamiyochiai 186, Tokio, Japan.

其他世界各国及我國の各種藝術雑誌  
を實費で迅速に取次販賣致します。

東京市芝區今入町 21 ● 長 隆 舎  
東京府下上落合 186 ● マ ウ オ